

## ●支援状況

### ①職員の派遣

- ・消防本部から、緊急消防援助隊の派遣（4/15～）5名編成、現在第5陣まで派遣
- ・上下水道部から、水道援助隊の派遣（4/21～）2名編成、現在第3陣まで派遣
- ・県市長会を通じ、避難所運営職員を派遣（5/6～※予定）4名編成

### ②市民からの支援物資をお預かり（4月18日～23日）

- ・紙おむつ（大人用、子ども用）、生理用品、トイレットペーパー、タオル、紙皿、割りばし、食品用ラップ、ウエットティッシュ、おしりふき、ブルーシート
- ・前原東中学校の生徒会が、地域に呼びかけ集めた支援物資も寄せられた。

### ③支援物資の搬送

- ・市が備蓄している水（500ml×6,300本）を熊本市へ搬送（4月18日）
- ・市民から寄せられた支援物資を南阿蘇村へ搬送（4月21日）  
※株式会社イトキュー様により、現地まで搬送を行った。

### ④日赤の募金箱設置

- ・ 251,886 円（4月22日、15時現在）

### ⑤住宅支援

- ・市営住宅6戸が提供可能

## ●教訓等

- ・今回の地震はこれまでの経験則外（前震及び余震、震源地など）
- ・避難場所の確保（体育館や市庁舎）
- ・備蓄の重要性（食料、水、毛布など）



# 新年度は「想いを形に」

## 市長3年目の市政運営

- 11の公約実現に向けた重要な年
- 昨年度策定した各種計画を実施する最初の年
- 山積する課題にチャレンジする年



- ◇持続可能なまちづくりを進めるため行財政改革を断行
- ◇総合力、スピード感をもって
- ◇当分の間は人口10万人を維持しつつ、10万2千人を目指す

### 【今年度特に力を入れる取組】

「重点プロジェクト実現化チーム」を結成、部署や組織を越えた横断的協議を行う。



効果的な事業実施に向けたロードマップを作成し、次年度からの事業で具体的な形にする。

## 新たな市民サービスを開始

- 新しい施設の利用開始   《伊都文化会館多目的ルーム、交流プラザ（志摩館・二丈館）》
- 子育て世代への支援    《病児・病後児保育事業、子ども医療費助成拡充》
- 教育の充実・環境整備   《英語教育の先行実施・「いとしま学」開始など》